

## 「図書館について考える集い in 志段味」が開催されました！

7月1日（日）午後2時より、志段味地区会館において「図書館について考える集い in 志段味」が開催されました。サブタイトルとして、「図書館の役割ってなあに？～図書館をもっと使いやすくするには！～」が掲げられた集会でした。

平成25年度から試行で指定管理者制度が導入される志段味図書館のお膝元で開催され、当日の参加者約40名のうち、半数が、地元、志段味の方でした。

指定管理者制度のことを初めて聞く方もみえることを想定し、指定管理者制度の説明について冒頭に行いました。その後、支部組合員から図書館における児童サービスについて日々の実践も交えながら説明がされました。会場からは、図書館の実態をより深く知ることが出来たとの声がありました。

フロアからの発言ということで北図書館を利用されている方が次のような発言をされました。「今、カウンターのところ委託職員の方が座っているが、入館するときに「いらっしゃいませ！」と言われると大変違和感がある。カウンターの職員が入れ替わり立ち替わり代わるので前に言ったことを何度も言わなくてはならず、サービスが低下している。カウンターこそ図書館の窓口であるべきだ。」「私は、図書館に命を救われた人間である。脳梗塞になり、そのリハビリとして図書館に通ったからだ。もしこれが誰もが無料で使えない施設だったら私は今、ここにいない。」と。

図書館の顔であるカウンターには正規の職員を配置し、儲け優先にならざるを得ない民間事業者でなく、公が直営で図書館を運営していくべきだと改めて確信させていただける発言でした。

今後の取り組みとしては、①地元への説明がなされていないため、それをすぐにでもやるように求め、②図書館協議会や教育子ども委員会での議論を傍聴し、広めていくことなどが提案されました。

多くの市民の皆さんとともに私たちも図書館のあるべき姿を確認しながら、大いに奮闘していきたいと思えます。